

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-085	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol involvement and other risky driver behaviors: effects on crash initiation and crash severity. アルコールとその他危険な運転行動：衝突発生と衝突強度への影響		
<b>執筆者</b>		
Shyhalla K.		
<b>掲載誌</b>		
Traffic Inj Prev. 2014;15(4):325-34. doi: 10.1080/15389588.2013.822491.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
自動車事故、危険運転行動、飲酒運転、国家道路安全交通局 (NHTSA)	24471355	
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 飲酒運転者や血中アルコール濃度 0.00%を超える運転者は重大な衝突事故を起こす頻度が多い。飲酒により、認知や反応が遅れ、協調性が障害されるため、衝突のリスクが高くなる。しかし、飲酒運転者はこれら以外のリスクを有しており、衝突事故に至る可能性がある。本研究では、飲酒の関与以外のリスクが衝突事故発生に寄与するかどうか、ならびに、飲酒関連あるいは飲酒に加え他の危険行動によって衝突強度は強くなるかどうかを検討した。		
<b>方法：</b> NHTSA (National Highway Traffic Safety Administration)データベースより約 140 万件の自動車事故データを用いた。飲酒運転が他の危険運転と関連するかどうか、また、飲酒運転者が、飲酒単独あるいは他のリスクと共に車への衝突事故、衝突事故を発生させる可能性が増加するか、衝突強度と関連するかを評価した。		
<b>結果：</b> 飲酒運転者は、他の運転者よりもシートベルトの使用が少なく、運転速度が速く、注意散漫な運転が多かった。車への衝突事故を起こした者は、飲酒者が多く、他のリスクを持つ傾向があった。衝突強度は、飲酒運転者で他の運転者より有意に大きく、他のリスクを持っているとさらに強度は増した。車同士の衝突の場合、両者の運転行動が衝突強度に影響していた。		
<b>結論：</b> 飲酒を含む危険運転行動は、衝突リスクを高めた。いかなる危険行動も衝突強度を強める傾向にあり、複数の危険行動はさらに強度を強める傾向にあった。他の危険行動は飲酒および衝突の両方と関連していた。それゆえ、他の危険行動の影響がある場合、これらの影響は、飲酒と衝突の明らかな関連を交絡しうる。そのため、飲酒を含む多くの危険行動の影響を考慮する必要がある。		